



編集・発行 蓮宗 能勢妙見山 広報部 〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 電話 072-739-0329 FAX 072-739-2883

微妙 (みみよう)

新實信導

「無上甚深、微妙の法は百千萬劫にも遭いたてまつること難し…」

私たちが朝夕の「おつとめ」をするとき、まずお唱えする『開経偈』の冒頭である。

私が身延山短大に入学して、本山で修行を始めて三年目を迎えたある日のことである。知り合いの老僧に法事の手伝いを依頼され、その法事に役僧として出仕した。無難に法事を済ませ控室も戻ったとき、老僧に「もう一度、開経偈を唱えてみて」と言われた。私が開経偈を唱え終えると、老僧が「いいか、無上甚深ミミヨウの法はだぞ」「ムミヨウの法ではないぞ」と注意を促された。

「いつもの慣れから唱えやすいムミヨウになっているぞ。間違えたではすまないことだ。微妙とは、なんともいえない味わいや美しさがあつて趣深いことを意味する。つまり、無上甚深微妙の法とは、法華経のことで、甚(はなは)だ深い教えで、これ以上奥深くてすばらしく、すべてにいきわたった教えは他にはない教えである…」

「ムミヨウ」を漢字に直すと無明。私たちに不幸をもたらし、苦痛や困惑、悲しみをもたらす根源が無明なのだ。微妙が最善だとすれば無明は最悪。お経もしか

り、お唱えするときにはしっかりと意味をわきまえ、上の空で唱えず、間違えないように一言一句おろそかにせず、心を集中して読誦するように」と諭された。

今では、良い思い出だ。学生時代に身延山で修行して、一人前になったと思っていた時の出来事だった。老僧は、日蓮宗僧侶になるための修行機関である信行道場で主任先生を勤めた方

で、読経の心構えや作法を懇切に教えていただいた御恩に今も感謝している。私たちがはかり知れないほどの長いあいだ生きていても、出会うことがむずかしいとされる法華経。今こうして、法華経を読誦できるといふ有り難さは、微妙ミミヨウの境地であると言えよう。けしてムミヨウ、ビミヨウにならないよう心掛けたい。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

諸々の苦縛を

離るるを

地震に豪雨 台風と

それに加えて 土砂災害

解脱を

得と名く

苦難の連鎖の この一年

但 虚妄を

離るるを

心機一転 来る年は

不運の呪縛を 解き放ち

解脱を

得と名く

心の絆を 強めよう

風評 虚妄に 惑うまい

『譬喩品第十九』

それが我らの 解脱道

【12月の主な行事】

- ★写経会 8日(日)11時
- ★月例折願法要 15日(土)13時
- ★鷗様月例祭 22日(日)15時

【1月の行事予定】

- ☆正月歳始祈禱 1日〜15日
- ※歳始祈禱申込受付中
- ※開運シールの授与
- ★書初め写経会 12日(日)11時
- 北辰閣2階にて金紙に写経
- 初心者の方もどうぞ!
- ★月例折願法要 15日(水)13時
- 願い事を書いた兜矢を献納
- ★鷗様月例祭 22日(水)15時

☆2月まで茶論はお休みです ☆お火焚祭りは2月11日です

《送迎車のご案内》

能勢電鉄ケーブル・リフトは、12月9日〜3月19日運休 (但し大晦日〜1月5日は運転)

御祈禱・御回向等を受けられる方は能勢電鉄「妙見口」駅・妙見山上の間を能勢妙見山から送迎車を出します。必ず2日前までに予約が必要です。妙見山事務所までご連絡下さい。

電話072(739)0329

魔女の一撃

箕浦 溪介

それは突然やってきた。私の日課である筋トレ中のことだ。腰が「ピキッ」という音を立て、激痛が走った。ギツクリ腰である。

正式名称「急性腰痛症」欧米ではその激しい痛みから「魔女の一撃」と呼ばれているそうだ。発症後すぐは意外と歩ける人が多く、その後48時間ほどで痛みの原因である炎症物質が拡大し、激痛を感じるようになる。私も動けなくなる程の痛みではなかったのですが、すぐに病院に行くことは出来た。先生に「もし明日、どうしても仕事に行くのならいつもより2時間早く起きて下さい。寝起きが一番痛むから」と言われたが、この痛みならなんとか行けるだろうと思っていた。

私であるが、目覚めた瞬間すべてを悟った。私は今日一日、布団から出ることに出来ないと。起き上がる事はおろか、寝返りを打つことすら出来ない。体を少しでも動かさうものであれば、強烈な痛みが走った。少しづつ少しづつ体を動かしていき、2時間後やっとの思いで起き上がる事ができたが、仕事に行くことは不可能であった。とにかく何をしても激痛が襲う。せき・くしゃみをするたびに悲鳴をあげ、椅子に座るのも痛かった。普段、我々を優しく癒してくれるソファですら、私に牙をむく。もたれさせてくれすらしない。座っても、今度は立ち上がる事が出来ない拷問器具となった。

落ち葉の季節。掃いても掃いてもキリがない毎日です。木が葉を落とすのは、気温の低下とともに葉の生理活動が衰え幹と枝だけで過ごすほうが木にとって都合がいいからだそうです。ところが落葉にはもつと大事な役割もあります。生物はみな体内の不要物を排泄することになる。我々動物にとつて腰というのはとても重要な部位なのだ。腰という漢字に「要」の字があることを身を以て体感した。

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

しなくてはならないのですが、植物にとつて落葉がそれにあたり、不要物は葉の中に溜めて、年に一回落ち葉として排泄しているというのです。 私たちの心の中に溜まったゴミや垢。不要物をお題目で浄化し、清らかな心で新年を迎えたいものです。 K.J

私は他の痛みや苦しみを知ることの大切さを説かれる。ただそれを理解するには自分の経験が如何に大切か。私は今回の経験で人があること、苦しみを、悩んでいるのかを、さらに深く考えていかなければいけないと痛切に感じた。

俳壇

（みのり）

冬ながらゆうゆうと浮かぶ白き雲
野地蔵の涙とも見ゆ時雨降る
クイズ解く窓辺を叩く冬の風
数値追ふ血圧計や朝寒し
文庫本開く窓辺や冬の風

法華経茶話

良医病子諭(三)

この良医病子諭というのは法華経『如来壽量品第十六』に説かれる比喩です。この比喩は今までご紹介した比喩の中でも、最も素朴でわかりやすいとお感じになる方も多いと思います。ですが、この諭えには実にたくさん示唆が秘められているのです。なので、今回はいつもより回数を割いて詳しくみていくことにしましょう。

この比喩の中の良医は釈尊、中毒に掛かってしまった子供達は我々凡夫、良薬は最上の教えを指しています。いつの時代も子供は父の指図を煙たがりますが、父がいなくなつて初めてその存在の有り難さを感じるものです。この比喩もそのことを踏襲して、床に臥せる子供達は父の死を知つて初めて調合した薬(教え)に気付くという構成になっています。